

アートプロジェクト

景色の変遷における場所性の観測

本企画は、千葉の土器文化をもとに、千葉の土を使って器を制作・焼成し、それが5000年後に発掘されることを想定したインスタレーションである。均質化が進む現代の街づくりや流通依存による文化の喪失に対し、地域固有の素材と手作業による景観づくりを通じ、生活と風景の再構築を目指す。展示では土と漆喰で仕上げた空間に、野焼きによる器を設置し、鉄骨構造と対比させる構成。素材の採取から展示まで、土地との関係性を深める表現となる。併せてワークショップ「身近な土からうつわを作ろう」を開催。市内で粘土を採取し、陶芸家の指導で土器を制作、最終日には野焼きを行う。対象は小学校4年生以上の市民。火の安全対策も万全に行う。この体験を通じて参加者は、千葉の過去と未来を想像し、自分の関わりが未来の景色を形づくることを実感する機会となることを目指す。



市民参加のかたち：ワークショップ・展示鑑賞

手と具

手と具は、工芸とアートという2つのジャンルの拡張と併合を基軸として活動している、アーティスト・ブランド。土地からもたらされる素材と、文化が作り出す景色に着目し、工芸とアートの価値感が堆積する「器」の表現をベースに、双方の目線から携わり制作している。

〈手〉は触れる、扱うための身体の一部、〈具〉はそなえおく用途のあるものであり、扱われる対象物を意味する。一万年以上前から続く人間の営みの本質や、ともにあった素材の実感を汲み取り、形にすると、私たちは一万年後の未来に遺りうる風景を想像することができる。

2025年現在、千葉市中央区を拠点としながら、郊外でのフィールドワークを始めとした素材の採取や風景撮影、野焼き制作等を中心に活動中。自然と共存していく中で得られる質感や色彩を、作品として実在させることで、近代的な社会の中で忘れ去られている感覚を開放するきっかけとなることを目指している。

2022 外山慧(陶芸家/千葉陶芸工房主宰)を中心に発足

2023 手と具 STUDIO/GALLERY オープン